

# 町家ペンキ塗り替えボランティア活動 1999年 in HAKODATE

■ 1999年8月28日（土）、29日（日） ■



before

←左

(15) 小笠原家住宅：1934(昭和9)年、元町23-4

【塗り替えの配色】外壁下見板：淡い緑色、窓枠・柱等：濃緑色、小庇：暗緑色の3色

→右

(16) 川又家・橋田家住宅：1934(昭和9)年、元町23-3

【塗り替えの配色】外壁下見板：淡い黄色、窓枠・柱等：茶色、小庇：濃い茶色の3色



before



after

●塗り替え対象物件の選定理由：一昨年、昨年に引き続き「三軒効果町並改善」をめざし、洋風下見板張り町家が三軒建ち並んでいるところとして、元町の東本願寺別院の大きな妻壁面が通りの正面に見える、元町23番の連続する2棟・3軒（二戸一長屋建て）を対象物件として選んだ。

●塗り替える色の方針：①西部地区に特徴的な色として、淡い緑色系とピンク色系の2つがあげられるが、そのうち淡い緑色系を外壁に採用し、地区に調和する色の一つ選ぶことにした。窓枠・柱等は濃い緑色、小庇はさらに濃い暗緑色と、緑色の濃淡、明暗のグラデーションを施し、装飾性の高い色の塗り分けとした。②もう1軒は、淡い緑色系に調和し、現在元町に建っているまわりの建物とのバランスのとれた色として、外壁に黄色を選んだ。この黄色にあうように、窓枠・柱等は茶色、小庇は濃い茶色と、装飾性を強調する3色の塗り分けとした。

●テレビの取材・番組の放送：29日（日）、NHKの朝のニュースで活動の様子が放送され、それを見た一市民が、かつて自分が住み暮らしていた建物であることを知り、昔を懐かしんでその日の午後にペンキ塗りをしている現地にやってきた、という嬉しいエピソードがあった。



after



【参加者】ペンキ塗りボランティア代表者・秋葉 康、菅 肇、田中敏子、前沢礼文（以上北海道大学大学院工学研究科住環境計画学分野・修士課程1年）、舟毛 佳、岡本浩一（以上北海道大学大学院工学研究科住環境計画学分野・修士課程2年）、常広陽子、村田雅彦、山下雅行（以上北海道大学工学部建築都市学科住環境計画学分野・4年）、森下 尚（北海道大学大学院工学研究科住環境計画学分野・修士）、荒澤いくみ、井上敏也、岩崎敬和、上山明史、橋本真幸、菅野良俊、針良 進、杉崎隆一、田中成輝、宮森俊彰、山田直喜、山村 肇、山村裕也、横田友美（以上函館工業高校・2、3年）、北嶋崇希、高橋早苗、尾谷基光、松川康治（以上函館工業高等専門学校・学生）、高澤善吉（函館工業高等専門学校・教授）、柳川寿代子（函館大学地質学研究室・学生）、太田誠一（元町倶楽部）、松島 晶子（北海道新聞記者）、青木ともえ、白取和美・大船・賢太、竹山悠志子、東峰美男、戸部香保梨、中川敏雄（以上一般参加）、以上44名

【協力者】所長（建物所有者）、小笠原・川又・橋田（以上居住者）、函館工業高校建築科教師・吉村富士夫（函館工業高校生のボランティア手配）、基澤善吉（函館高等学校生のボランティア手配、女子学生の宿泊受け入れ）、又十小坂建設院（足場の手配）、日本ペイント販売北海道支社・米沢雄夫（ペンキ塗料の手配）、函館からトラック事務員・関有崎十和內高子（足場の交渉、ハケ等ペンキ用具の保管、軽トラック）、太田誠一（対象建物所有者の承諾、所有者との色の相談・決定、男子学生の宿泊受け入れ）、元町倶楽部・山本真也（対象物件の訪問）

※以上敬称略

